SHINDEN HIGHTEX CORPORATION

東証スタンダード：3131

2027年3月期第2四半期 決算説明資料

2026年11月10日

1. 業績サマリ（2027年3月期 第2四半期累計）

SHINDEN HIGHTEX CORPORATION

半導体製品分野が業績を牽引し、売上高2.3倍・営業利益8.9倍

金額単位：百万円	前年度Q2実績（26年3月期）	当年度Q2実績（27年3月期）	増減額	前年同期比	コメント
売上高	19,892	45,832	+25,940	2.3倍	半導体製品分野の大幅な伸長に加え、システム製品分野も伸長し、大幅な増収となりました。
営業利益	425	3,766	+3,341	8.9倍	半導体製品分野を中心とした販売拡大により売上総利益が増加し、営業利益は大幅な増益となりました。
経常利益	254	3,551	+3,297	14.0倍	売上総利益の増加を主因として、借入金の増加に伴う支払利息の増加を吸収し、為替差益を計上しました。 経常利益及び親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期を大幅に上回りました。
親会社株主に帰属する中間純利益	172	2,435	+2,262	14.1倍	

市況改善による追い風に加え、事業基盤強化につながる取組みも寄与

市況要因

メモリー関連商材の価格上昇

事業基盤強化要因

- 新規ビジネスの拡大
- 顧客需要の取り込み
- システム製品分野の伸長

Copyright（C） SHINDEN HIGHTEX, Corp. All Rights Reserved.

2. 四半期ごとの業績推移

SHINDEN HIGHTEX CORPORATION

下期以降は、メモリー関連商材の供給制約に拍車がかかる一方、価格については上期ほどの上昇を見込んでいません。
上期は、販売拡大と価格上昇を背景とした売上総利益の増加が利益水準を大きく押し上げましたが、下期は価格上昇による押上げ効果が弱まることから、利益水準についても上期に比べ落ち着く見通しです。

単位：百万円

売上高



営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する四半期純利益

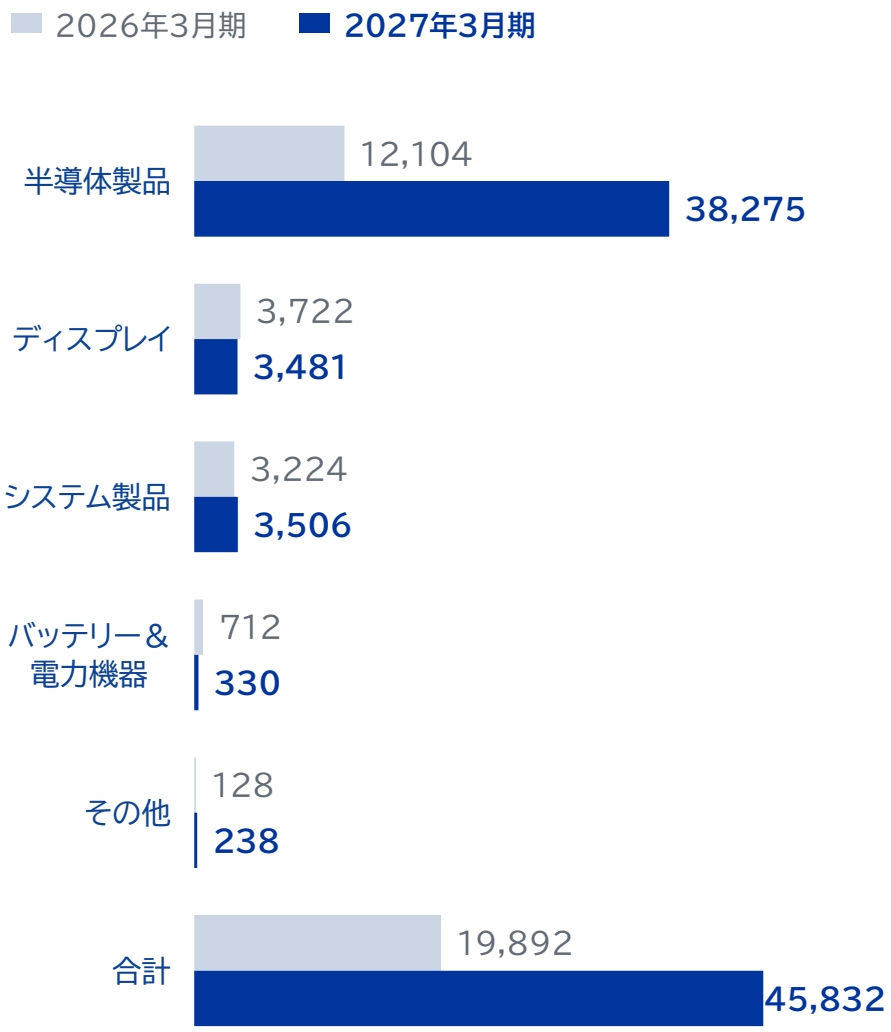


Copyright（C） SHINDEN HIGHTEX, Corp. All Rights Reserved.

3. 分野別の販売状況(前年同期比較)

SHINDEN HIGHTEX CORPORATION

第2四半期累計　　**+25,940百万円**



単位:百万円

分野	前年同期比	主な販売動向
半導体製品	3.2倍	メモリー関連商材の価格上昇を背景とした市場環境の改善に加え、新規ビジネスの拡大及び顧客需要の取り込みが進んだことから、大幅な増収となりました。 また、市況改善による追い風に加え、調達機能を活用した製品確保や新規案件の獲得も寄与し、当中間連結会計期間の業績を牽引しました。
ディスプレイ	▲6.5%	PC関連需要の一巡等を背景に、前年同期比では減収となりました。 一方、一部の液晶モジュール及びOLED関連案件は堅調に推移しました。
システム製品	+8.7%	検査等装置やサーバー関連ビジネスを中心に販売が拡大したことから、増収となりました。
バッテリー& 電力機器	▲53.6%	主力であった家庭用ESS向けリチウムイオン電池ビジネスの終息影響により、減収となりました。

Copyright (C)　SHINDEN HIGHTEX, Corp.　All Rights Reserved.

4. 分野別の現状認識と今後の方向性

SHINDEN HIGHTEX CORPORATION

◇ 市況の追い風を取り込みながら、事業基盤強化につながる取組みが進展

■ 利益の質のブレークダウン

市況要因 ← 短期的・変動性を伴う要因

・メモリー関連商材の価格上昇
・半導体市場の需給環境

事業基盤強化要因 ← 中期的な収益基盤につながる要因

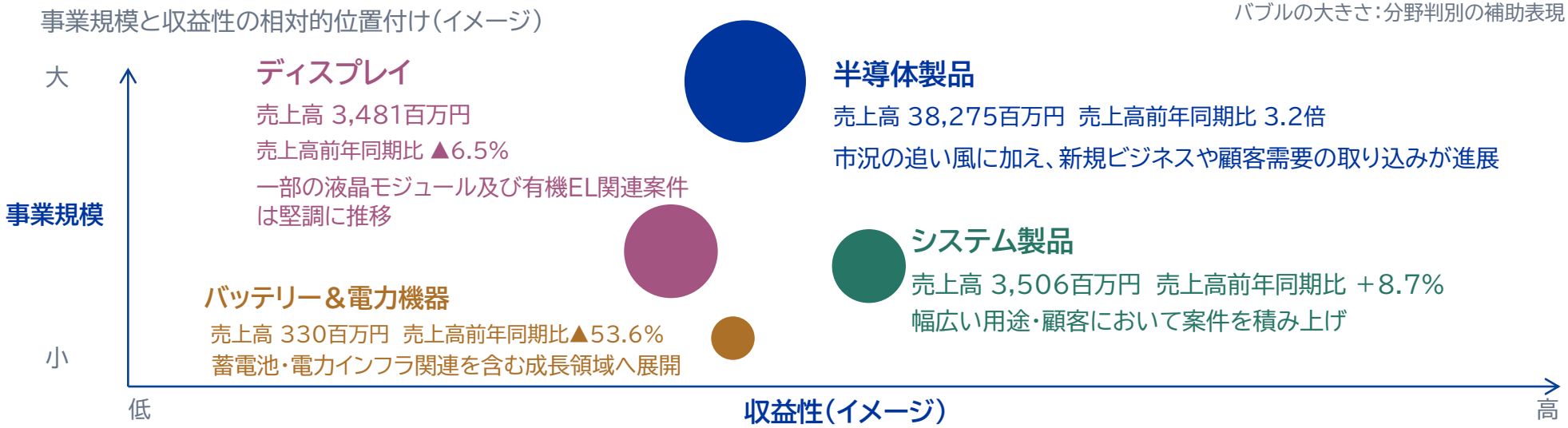
・新規ビジネスの拡大
・顧客需要の取り込み
・調達機能を活用した商材確保
・新規案件の獲得
・システム製品分野の伸長

両要因が重なり、当中間連結会計期間の業績拡大に寄与

■ 分野別パフォーマンスマップ

事業規模と収益性の相対的位置付け（イメージ）

売上高：2027年3月期 第2四半期累計
バブルの大きさ：分野判別の補助表現



※各分野の位置は、売上規模及び収益性の相対的なイメージを示したものであり、利益率の実績値を示すものではありません。

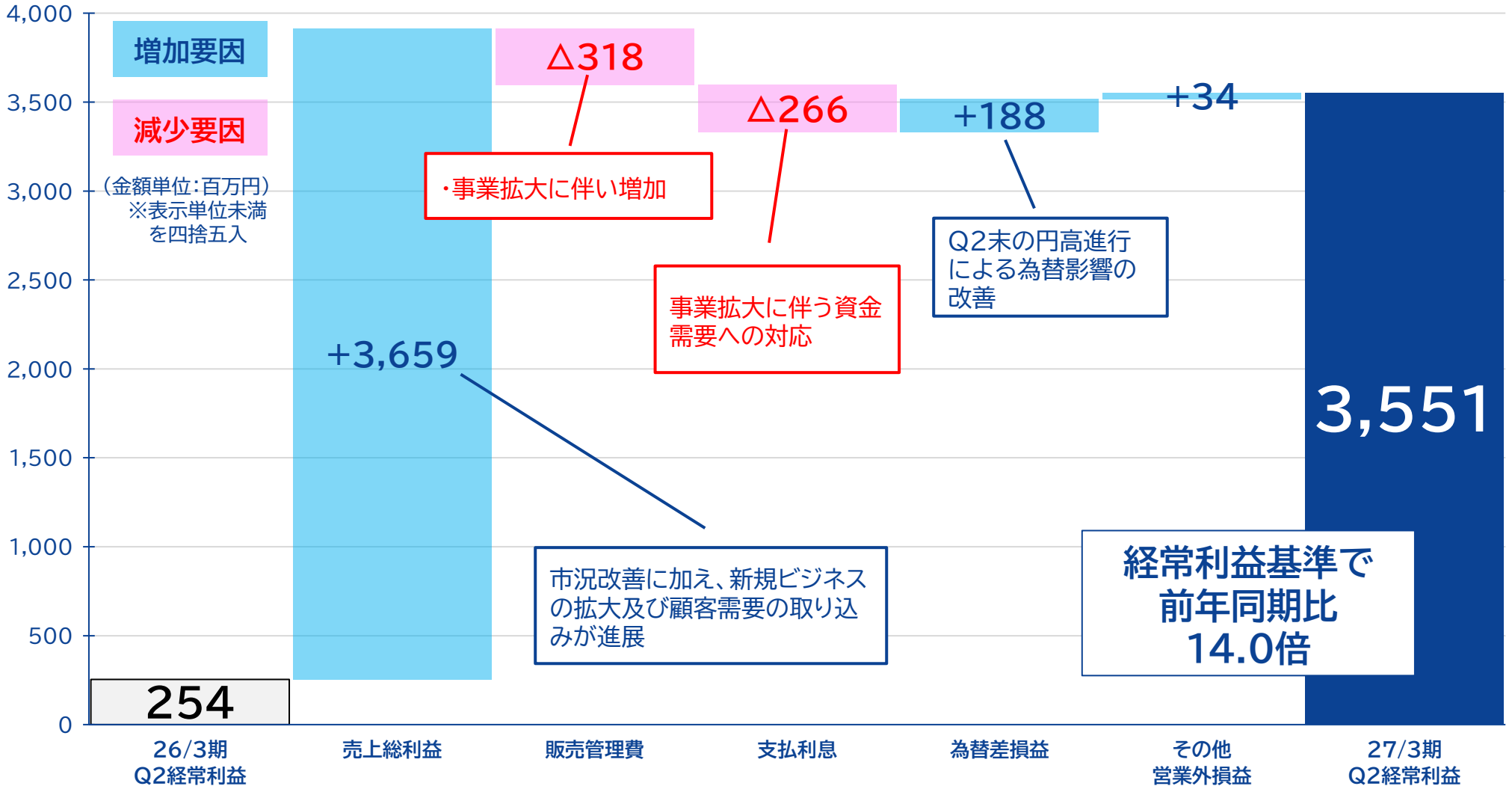
Copyright(C) SHINDEN HIGHTEX, Corp. All Rights Reserved.

5. 経常利益の変動要因チャート(Q2)

SHINDEN HIGHTEX CORPORATION

結論:市況改善と新規ビジネスの進展により大幅増益

経常利益の増益は、半導体製品分野を中心とした売上総利益の拡大が主因です。
市況改善に加え、新規ビジネス及び顧客需要の取り込みが寄与し、大幅な増益となりました。



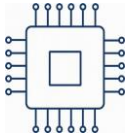
Copyright (C) SHINDEN HIGHTEX, Corp. All Rights Reserved.

6. 通期業績予想及び配当予想 再修正の考え方

SHINDEN HIGHTEX CORPORATION

Q2累計も引き続き半導体製品分野が業績を牽引し、通期業績予想を再上方修正。
上振れに半導体の一時的な市況要因も含まれるため、価格動向・需給動向を慎重に見極める必要あり。
業績上振れ分は、株主還元を強化しつつ、運転資金需要および財務基盤の強化にも配慮して配分。

① Q2進捗状況



- 半導体製品分野が業績全体を牽引
- メモリー関連商材の価格上昇及び新規ビジネスの立ち上がりが寄与
- 更なる新規ビジネスの立上がり見込
- 半導体製品分野を除く各分野は概ね当初想定どおり

② 業績・配当予想の修正判断



- 左記のとおり売上高及び各段階利益が前回修正見通しを上回る見込み
- 通期連結業績予想を再修正
- 配当予想は、基準配当135円を維持したうえで、上振れ分の一部を特別配当として前回予想に上乗せし還元

③ 中期経営計画との関係

- 修正後の通期業績予想では、第三次中期経営計画に掲げる利益目標を達成する見込み
- 一方、足元の業績には半導体市況による一時的な要因も含まれており、その持続性を慎重に見極める必要
- 中計の見直しには策定時と同様の総合的な検討プロセスを要するため、**現時点では目標値の期中見直しは行わず、修正後の通期業績予想の達成に向けた取組みと、業績の持続性の見極めを優先**

POINT

下期以降は、メモリー関連商材の供給制約に拍車がかかる一方、価格については上期ほどの上昇を見込んでおらず、価格上昇による売上総利益の押上げ効果が弱まることから、利益水準は上期に比べ落ち着く見通し。

Copyright（C） SHINDEN HIGHTEX, Corp. All Rights Reserved.

7. 通期業績予想及び配当予想の修正内容

SHINDEN HIGHTEX CORPORATION

■ 通期連結業績予想の修正(再修正)

金額単位:百万円	前回修正予想(2026/8/10)	今回修正予想(2026/11/10	増減額	増減率
売上高	79,000	**93,000**	+14,000	+17.7%
営業利益	4,000	**6,500**	+2,500	+62.5%
経常利益	3,000	**5,700**	+2,700	+90.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,000	**4,000**	+2,000	+100.0%

■ 配当予想の修正(再修正)

	前回修正予想(2026/8/10)	今回修正予想(2026/11/10)	増減額
年間配当(合計)	235円	**425円**	+190円
└ 基準配当 ※	└135円	**└135円**	±0円
└ 特別配当 ※	└100円	**└290円**	+190円

※基準配当は、配当方針に基づく安定的かつ継続的な配当水準であり、特別配当は業績上振れに対応する配当です。
今回の上振れ分については、株主還元の強化と、運転資金需要および財務基盤強化とのバランスを総合的に考慮し配分しております。

■ 配当予想修正の考え方

一時的な業績上振れを、株主還元と財務基盤強化に配分



Copyright (C) SHINDEN HIGHTEX, Corp. All Rights Reserved.

8. 千葉県旭市に系統用高圧蓄電所が完成

SHINDEN HIGHTEX CORPORATION



写真：完成した系統用高圧蓄電所（千葉県旭市）

千葉県旭市に系統用高圧蓄電所が完成

引渡し完了
建設工事および引渡し手続きが完了

現在、稼働準備を推進
現在、安定稼働に向けた準備を推進中

2027年3月期中の収益化を目指す
稼働状況を確認しながら、収益化に向けた取組みを推進

2028年3月期以降　安定稼働を予定
中長期的な収益基盤の強化

電力需要地に近い都市近郊立地

首都圏の電力需要地に近接した立地で、系統安定化ニーズへの対応を想定した設備です。

Copyright（C）　SHINDEN HIGHTEX, Corp.　All Rights Reserved.

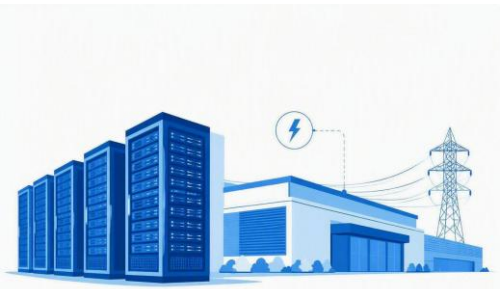
9. AI社会の進展と電力インフラ需要の拡大

SHINDEN HIGHTEX CORPORATION

当社は、AI社会の進展に伴う半導体需要の拡大に加え、電力インフラ需要の拡大も成長機会として捉えています。

背景認識

千葉県旭市の系統用高圧蓄電所案件は、バッテリー＆電力機器分野を中長期の成長分野と位置付ける取組みの一つです。現在は稼働準備を進めており、今期中の収益化を目指しています。



データセンター（イメージ）

AI需要の拡大

↓

データセンター需要の拡大

↓

電力需要の増加

↓

電力インフラの高度化

↓

系統用蓄電池需要の拡大

↓

当社 バッテリー＆電力機器分野

バッテリー＆電力機器分野の方向性

- 電力インフラ関連市場の拡大に対応
- 蓄電池関連案件を継続推進
- 商社として培った調達力・提案力を活用
- 中長期的な成長領域として育成

具体案件：千葉県旭市 系統用高圧蓄電所



Copyright（C） SHINDEN HIGHTEX, Corp. All Rights Reserved.

10. 投資家の皆さまとの対話から

SHINDEN HIGHTEX CORPORATION

投資家の皆さまから多く寄せられるご質問について、当社の考え方をご説明します。

01｜業績拡大の要因

この好業績は、市況要因だけによるものですか？

市況改善に加え、**新規ビジネスの立上げ**や**顧客需要の取り込み**も寄与しています。

→ 詳細は P4
「分野別の販売状況」

02｜業績の持続性

この好業績は続きますか？

市況要因を含むため、**足元と同水準の業績がそのまま継続することは前提としていません。**
一方、**事業基盤の強化**を継続して進めています。

→ 詳細は P5
「分野別の現状認識と今後の方向性」

03｜財務健全性

借入金の増加は問題ないのでしょうか？

事業拡大に伴う**運転資金需要**への対応です。
成長機会の取り込みと**財務健全性**とのバランスを重視して管理しています。

成長機会の取り込み ⇔ 財務健全性

04｜中期経営計画

中期経営計画は見直さないのですか？

利益目標は達成見込みですが、
市況要因も含まれるため、現時点では期中見直しを行わず**業績の持続性**を見極めます。

→ 詳細は P7
「通期業績予想及び配当予想 再修正の考え方」

Copyright（C） SHINDEN HIGHTEX, Corp. All Rights Reserved.

本資料お取扱上のご注意

SHINDEN HIGHTEX CORPORATION

本資料は、シンデン・ハイテックス株式会社（以下、当社）の事業及び業界動向に加えて、当社による現在の予定、推定、見込みまたは予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確実性がつきまとっています。

すでに知られた、もしくは知られていないリスク、不確実性、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。

本資料における将来の展望に関する表明は、2026年11月10日現在において、利用可能な情報に基づいて、当社によりなされたものであり、将来の展望に対する表明、予想に関しては、必ずしも実現することをお約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもあり得ますことをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ先

シンデン・ハイテックス株式会社
経営企画室（IR担当）

ﾌﾘｰｺｰﾙ:0800-5000-345

Copyright（C） SHINDEN HIGHTEX, Corp. All Rights Reserved.